

2021年12月20日

各 位

会社名 日本調剤株式会社
代表者名 代表取締役社長 三津原 庸介
(コード番号 3341 東証第1部)
問合せ先 経営企画部長 東條 祐弘
(TEL. 03-6810-0800)

サステナビリティ基本方針の策定、
サステナビリティ委員会の設置及びマテリアリティ（重要課題）の特定に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向けてサステナビリティ基本方針の策定及びサステナビリティ委員会の設置を決議いたしました。併せて同日開催のサステナビリティ委員会においてマテリアリティ（重要課題）の特定をいたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 目的

社会課題や環境問題が深刻化するなか、当社グループでは、サステナビリティを重要な経営テーマと考え、サステナビリティへの取組みをより一層強化し、実行するため、「サステナビリティ基本方針」を策定し、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置いたしました。併せて当社が優先的に取り組むべきマテリアリティ（重要課題）の特定を行いました。

2. サステナビリティ基本方針

私たち日本調剤グループは、サステナビリティを中長期的な企業価値向上に向けた経営戦略の重要事項と認識しています。あらゆるステークホルダーとの対話・協働のもと、人権を尊重し、環境保全に配慮した公正で透明性の高い経営基盤を構築します。そして、事業活動を通じて医療・ヘルスケア分野における社会課題の解決に取り組み、社会の持続可能性を追求していきます。

3. サステナビリティ委員会の設置

① 委員会の役割

本委員会は取締役会直属の機関であり、特定したマテリアリティ（重要課題）に対する取組みの進捗の統括と評価、事業戦略への落とし込み、国際的なガイドラインの遵守、イニシアティブへの参画の協議などを行い、適宜、取締役会に報告します。

② 委員会の構成

本委員会は代表取締役社長を委員長とし、当社取締役会が選任した委員により、構成されます。

4. 特定したマテリアリティ（重要課題）

日本調剤グループは、持続可能な社会への貢献に求められる 21 のマテリアリティ（重要課題）を特定いたしました。6 つの重要課題グループに大別されるこのマテリアリティを踏まえて、事業活動を通じた貢献と経営基盤の強化の両面から取り組みを進めていきます。

重要課題グループ	No.	マテリアリティ
医療のクオリティとアクセシビリティ	1	薬局機能の強化（高度医療や地域医療への対応）による患者さまの薬物治療効果の向上
	2	未病・予防など地域の健康をサポートする薬局機能の拡張
	3	薬局における医薬品使用の適正化による社会保障への貢献
	4	地域の医療・福祉インフラとしての薬局の持続的な運営、災害・パンデミック等への対応
	5	薬局における医療安全の確保
	6	DX によるオンライン医療推進と新規ビジネス創出
	7	医療発展に貢献する調査・研究発表
医薬品の品質と安定供給	8	高品質で安全性の高い医薬品の研究開発・製造
	9	医薬品の安定供給
医療機関の人的課題の解消	10	良質な医療サービスの提供に向けた人的側面からの支援
	11	産業医紹介によるメンタルヘルスを含む健康と労働衛生の支援
カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーへの寄与	12	薬局と工場をはじめとした廃棄物の削減と資源利用の効率化
	13	エネルギー利用の効率化と再生可能エネルギー利用による CO2 削減
	14	環境・社会配慮と透明性に優れたサプライチェーンの構築
多様な人材の育成と活躍	15	会社の成長を支える人材の確保と従業員の成長を促す人事制度の整備
	16	人権尊重と女性活躍・ダイバーシティの推進
	17	従業員の健康と働きがいを増進する職場環境の確立
社会的責任を果たすためのガバナンス強化	18	難病や障害などの医療福祉領域への支援
	19	コーポレート・ガバナンスの持続的な強化と透明性の高い情報開示
	20	コンプライアンスの持続的な強化と腐敗防止
	21	リスクの適正な評価と対応による機会創出

なお、マテリアリティ（重要課題）の詳細につきましては、当社サステナビリティサイト (<https://www.nicho.co.jp/corporate/sustainability/about/>) をご確認ください。

以上